



新潟支部会報

一般社団法人 大学女性協会新潟支部
2023年3月 No. 9

目次

支部奨学賞授与式開催報告・・・1～4 頁
10月学習会報告・・・・・・・・・・ 5 頁

国内奨学ホームズ賞受賞報告・・・6 頁
支部の動き・・・・・・・・・・・・・7 頁
お知らせほか・・・・・・・・・・・・・8 頁

ごあいさつ

今年度も残りわずかとなり、コロナ禍も少しずつ落ち着き次のフェーズを迎えようとしております。昨年後半も、私どもの会の主な行事の一つである支部奨学賞授与式に優秀な女子学生を3名お迎えすることが出来て歓びを感じております。また国内奨学賞に応募の1名が全国から優秀な応募者の中から特にホームズ賞を受賞され、私どもの活動が報われたような無上の喜びを感じております。

新しい年度も引き続き、女性の活躍と地位の向上に尽力致します。

共同支部長 鈴木裕美

支部奨学賞授与式 開催報告

(一社)大学女性協会新潟支部
第73回支部奨学賞授与式
2022年12月3日(土)

於 新潟市男女共同参画推進センター

今年で73回目となる新潟支部奨学賞授与式を、3名の優秀な受賞者をお迎えして開催致しました。ジェンダー平等をテーマにした小論文による応募の方式も今年で11回目となり、今年は「ジェンダー平等社会への思い」という題で募集しました。選考を重ねてき

てジェンダー平等という言葉が身近になってきたことが感じられます。特に受賞者の方々のスピーチから男女平等の社会の実現を待つのではなく、「自らリーダーとして社会に貢献していきたい」という強い決意が伝わり、感動しました。今年は涌井杏奈さんの指導教授でいらっしゃる佐藤拓一先生と昨年の受賞者の高橋七瀬さんも御参加下さいました。新潟支部奨学賞が多くの女子学生の方々の勉学の励みになると良いと思います。頼もしい受賞の皆様今後の御活躍をお祈りいたします。

支部奨学賞担当副支部長 田代信子



2022 年度支部奨学賞が決まりました

受 賞 者

涌井 杏奈 さん

新潟大学大学院
保健学研究科
博士後期課程 3 年

岡本 優美 さん

新潟大学大学院
現代社会文化研究科
博士後期課程 1 年

木村 莉子 さん

新潟大学
工学部工学科 4 年

涌井杏奈さん 自己紹介スピーチ要約



私は新潟大学の学部、大学院で、ペットボトル飲料物の飲み残しや液体ミルクなどの乳児用飲料物の飲み残しに存在する細菌について研究し、学会等で発表してきました。

また、研究の傍ら胚培養士として大学病院で生殖医療に係わる仕事を経験し、「女性の人生設計と妊娠出産のタイムリミット」について、高齢出産のリスクの大きさや年齢が進んだ時の妊娠の難しさを実感しました。

大学院保健学研究科は男性が多いです。私は、まだ数少ない、大学院保健学研究科を卒業した先輩として、後輩の女子学生のロールモデルとなるよう、自分のライフプランをひとつひとつ実現していき、将来は、後輩の女子学生の教育に貢献できるようになりたいです。

「ジェンダー平等社会への思い～保健学研究を5年間経験する中で～」論文要旨

大学院という高等教育機関で学び、研究する傍ら、大学院で胚培養士という業務に従事したという経験を踏まえて、若年層のがん患者及び「がんサバイバー」が増えており、その不妊対策が必要となっていること、そして医療現場における「妊孕性温存療法」について概説しました。またこの小論文では、最近、公的医療保険が適用されるようになった健康な人の不妊治療、特に「卵子凍結」について、過信せず、妊娠・出産には適齢期があり、計画的に考えるべきという（当然でありながら、意外に）見落とされがちな視点についても提言しました。

妊娠・出産、そして不妊治療が女性に過重となっている現況を緩和・改善するために仕事(職場)環境・社会環境を整備し、妊娠・出産と仕事(あるいは不妊治療と仕事)の両立という面において、ジェンダー平等へと舵を切ることが、日本の将来(社会)のためには必要であると思われま

岡本優美さん スピーチ要約

私は20年以上競泳を続けていたこともあってスポーツ科学に興味があり、学部はスポーツ系の学科に入学し、現在は新潟大学の文系の大学院に所属しています。

研究活動に足を踏み入れてから、健康科学に係わる仕事に携わりたいという考えがより明確になり、アカデミア、企業を問わず、進路を探っている状況ですが、将来アカデミアで研究者になった時、次世代の女性研究者の育成ということが重要だと考えています。やるスポーツにしても、研究するスポーツにしても、女性が少ないのは大きな問題だと思います。研究者となって、

次世代の女性研究者の教育に携わることが、スポーツのより良い将来に繋がっていくのではないかと考えております。

「ジェンダー平等社会への思い
~これまでとこれからの私の研究~」論文要旨

学術研究においてジェンダー平等を実現することは科学の発展のブレーキを解くことであり、性別によらない幸せへとつながる。しかし、学術研究においてジェンダーに関する問題は様々存在しており、それらの解決は急務である。

そこで本論文では、女性の健康のための研究に取り組む私が、コロナ禍で自身の研究を見つめ直した際に明らかになった専門分野におけるジェンダーに関わる問題を提起した。特に、自身の専門であるスポーツ科学分野において、男性に比べて女性を対象にした研究が少ないことに焦点を当てて状況を説明し、その改善に向けてこれから私がやるべきことを考慮した。その結果、一つの解決策を次世代の教育に見出した。

将来、次世代の研究者が後に続くように、私自身が明確な社会的意義を持った研究を続けジェンダー平等への思いを絶やさないことが、学術研究、ひいては社会全体におけるジェンダー平等を達成する一助になると考えられる。



木村莉子さん スピーチ要約



私は人の心に寄り添った提案ができるデータサイエンティストを目指しています。現在所属している新潟大学では人間工学をベースとしてデータサイエンスを使う実験を行っています。またアルバイト先では先日倫理的に問題のあるコミュニケーションを検出する機械学習モデルの構築をするプロジェクトに所属しました。今やっている勉強を生かし、今後はより実践的かつ人の心に寄り添ったデータ分析や機械学習モデルの構築を行います。卒業まで残り少ないですが自分が納得できる

結果を報告できるように精進してまいります。

この度ジェンダー平等や女性活躍について考えるきっかけを頂き、今後も深く考え、時代の流れを直視しその時に自分ができる最大の行動を全力で行いたいと思っております。

「ジェンダー平等社会実現に向けたデータサイエンスの社会への寄与」論文要旨

データサイエンスはどのような点でジェンダー平等社会へ寄与できるのだろうか。ジェンダー平等社会の実現に向けたデータサイエンスの社会への寄与の3つの方法を検証した。データサイエンスを駆使した「施策策定」は注目されづらい問題に焦点を当て、当事者たちの声を可視化し課題を解決するための施策を考えることや非当事者に問題の深刻さを認知させることに寄与する。データサイエンスの「教育」は、学生及び就労者の多様な働き方の実現に寄与する。女性データサイエンティストの増加はデータサイエンティストを「多様化」させ、無意識の差別解消に寄与する。3つの寄与は「施策→教育→多様化」に影響を与える循環構造にある。この循環構造は、社会システムの問題点を発見及び解決し、そしてジェンダー平等社会実現に寄与する。

支部長 挨拶

第73回支部奨学賞授与式

次 第

- 1 開会
- 2 奨学賞授与
- 3 支部長挨拶 大淵智絵
- 4 祝辞 鈴木裕美
- 5 受賞者スピーチ
- 6 会員からの贈る言葉
- 7 閉会
- 8 記念撮影

本日第73回を迎えた新潟支部奨学賞授与式の開催に当たり、関係者の皆様に御礼申し上げます。

本年は3名の受賞者をお迎えしました。ご受賞おめでとうございます。そして日頃からご指導に当たってこられた新潟大学大学院保健学科の佐藤拓一教授と昨年度の受賞者である高橋七瀬さんご臨席下さり、お忙しい中、また寒い中をありがとうございました。

感染禍のもとでささやかな式典となりましたが、心を込めて準備いたしました。今年度の応募論文のテーマは「ジェンダー平等への思い」です。論文からは若い皆様のご自身の研究内容をジェンダー平等や女性の活躍、健康に役立てるための具体的な道筋を見通していること、ご自身が後進女性にとってロールモデルとなると心に強く持つておられることがとても頼もしい印象でした。

小論文を提出いただくようになって11年目、この間に道半ばとはいえ社会の理解も深まりつつあります。ご本人はもちろん、指導にあられた先生方、そして家庭や社会全般で様々な努力が積み重なった成果ではありますが、私どもの活動もその一端を担うことが出来たならこれほど嬉しいことはありません。

皆様にはリーダーとして様々な活躍が期待されています。道を進むのは勇気がいることですが、この受賞を機に様々な年代の女性との出会いを大切に、より豊かな人生を共有されることを願っております。女性の教育が世の中を良くすることを信じ、それぞれの立場で共に頑張ってまいりましょう。私たちはいつでも応援しています。

大淵智絵

祝 辞

昨日の初雪には驚かせられましたが、本日は好天の青空を臨み、受賞者の皆様に祝福しているようでございます。本日は大変おめでとうございます。

私はこの奨学賞はじめ支部の多岐にわたる業務を一手に引き受けておられる大淵支部長のサポート役として共同代表をお引き受けしているもので、鈴木裕美でございます。個人的には茶道精神の普及に努めるべく、その文化を大切に作る心や相対する相手に尊敬の念を払い思いやりを持つ大切さとともに、茶道の持つ知恵や工夫をいかに臨機応変に生かしてゆくかということをお伝えする立場でございます。本日の受賞者の所属する新潟大学の医歯学部の学生にも指導いたしております。

また裁判所という法律で問題を解決する機関には、一般人の知恵も入れ、条理にかなった解決をするという調停制度というものがあり、その調停委員も務めております。

複数の応募者の中から選ばれた皆様方の研究は素晴らしいもので感動いたしました。また今後はご自身の研究とともに後に続く研究者を育て、また家庭生活を営む上では男性と共に同等に協力し次の世代をはぐくんで行かれる事とも思います。

社会を良くするのは女性の活躍に依るとはよく言われますが、それは教育と実績の積み重ねであり、しかし産む性である女性が男性と同じく活躍するためにも、少し立ち止まって今を見直していただく視点を持っていただき、どうあるべきかを考えて頂けたらと願います。

本日は佐藤先生、昨年受賞の高橋さんのご参加も頂き、私どもの活動にご理解いただき賛同いただいたものと感謝いたすところです。

益々のご活躍を願いつつ、改めて受賞をお祝い申し上げます。

鈴木裕美

10 月例会報告

「世界文化遺産 国立西洋美術館に見る美【ル・コルビジエの建築からの検証】」

国際交流部学習会記録 10月24日(月) オンライン学習会

東京上野公園内にある国立西洋美術館教育普及室職員より収蔵品の松方コレクションと美術館の設計を担当したル・コルビジエ建築についてオンラインで解説を聞く。その後二つのグループに分かれて2点の絵画を鑑賞し、質問に答えながら自由に感想を話し合う。

松方コレクション

実業家の松方幸次郎(1866~1950)が「日本の若い芸術家に本物の西洋美術を見せてあげたい。」という思いと美術館を作りたいという願いで50歳より収集したヨーロッパの絵画・彫刻と浮世絵8,000点を含む美術品が始まりである。10,000点



写真：国立西洋美術館ウェブサイトより

の収集品は歴史の変遷を経て散逸・焼失したが、1951年に美術館建設を条件にフランス政府から返還された。近代フランス絵画・彫刻375点を中心とした収集品が1959年発足した国立西洋美術館に現在収蔵されている。政府は20世紀の建築に大きな影響を与え、フランスで活躍していたル・コルビジエに美術館設計を依頼する。国立西洋美術館を含む17の建築資産が2016年に世界文化遺産に登録された。

ル・コルビジエ建築の3つの特徴

1、メゾン・ドミノ

- ① 建物を柱で支えることにより水平な屋根ができる(ピロティ)
- ② 屋上庭園ができる。③ 間取りが自由に決められる。④ 水平に連続する窓を作ることができる。⑤ 壁の素材が自由に決められる。

以上のことにより建物の中を人や風が自由に行き来できて、光を多方面から取り込むことが可能になった。

2、モデュロール

身長183センチの体に合わせた尺度の基準を建物に使うこと。外壁の繋ぎ目の幅や手すりの高さ等に使われている。そこから建物に統一感とリズムが生まれる。

3、無限成長美術館

展示作品が増えた場合に自由な空間が存在しているので、螺旋状に展示場を増やしていくことが可能になった。

解説を聞いた後は二つのグループに分かれて、質問に答えながら見方、感じ方の糸口を膨らませて、和やかな雰囲気グループディスカッションの時間を持つことができた。鑑賞の視点のヒントを分かりやすく教えて頂き、見る人の主観を大切にす対話型鑑賞を体験することができたように思う。学習会をきっかけに展示作品ばかりでなく飾り方や会場の建物にもこれから興味や関心が広がるのではないかと感じた。

記録 田代信子

本部国内奨学賞授与式－新春のつどい

2022年度の東京での新春のつどいは、装いも新たに年明けの23年1月14日に神田神保町の学士会館で行われました。例年通り、国内奨学生への奨学賞授与式も行われ、新潟からは「アスリートの月経不順に対するビタミンD及び鉄の追加摂取の効果」を論文テーマとした宮本真菜さん（新潟医療福祉大学大学院 博士課程 後期 1年）が特にホームズ賞という、国内奨学生の中から更に1名が選ばれるという名誉ある賞に選ばれ、新潟からは初回ということもあり、共同代表の鈴木裕美と、すでに千葉に転居されながら新潟支部に所属の関妙子さんの2名でお祝いにつけました。

今年はコロナ禍も峠は越えつつある中で、時世的にも健康に関心が集まったためか、例年になく医療系の研究テーマを選択された割合が多かったとのことでした。 仕事のために鈴木は懇親会に出席はかなわなかったが、出席の関さんのお陰で久々の懇親会開催の様子も伝わり、当日帰郷した宮本さんからも早速お礼のメールをいただきました。



鈴木裕美



新潟支部に45年間もお世話になりながら、私が本部主催の新春の行事に出席したのは、今回が初めてでした。代々の支部長さんや昨年亡くなられた山田和子さんは他支部会員との交流の場として、殆ど毎年積極的に参加されていたと聞いています。私が今回重たい腰をあげたのは、第一に今回の宮本真菜さんのホームズ奨学生としての名誉ある受賞に祝意を表したいのと、せっかく会場に近いところに居住する会員として、参加者の頭数で何かのお役に立てるかもと考えたことでした。

式典後の新春のつどいには、各支部からの様々な情報交換がありました。お食事をしながら、会員のお話を聞きましょうとの司会者のアナウンスに続いていきなり、北から順に新潟の関さんどうぞ、というお声が飛んで来ました。トップバッターに指名されるとは全く予想外のことで、私の口の中ではまだ噛み切れていないステーキが遊んでいました。話す内容も何も思いつかないまま、私が初めてJAUWへ入会したのは1957年の福井支部ですから、出席者の中で一番古株でしょうと切り出しましたら、その頃は受賞者の方々はまだ生まれてもいないでしょうと会場が一瞬どよめきました。そのあとは順次各支部の近況報告があり、余った時間で再び受賞者の方々のエピソードなどが披露されて、総会やセミナーとは一味違った和やかな暖かい雰囲気の中で、若人たちの今後の益々のご活躍にエールを送って閉会となりました。後方のバザーコーナーでは、珍しい品物が賑やかさを添えていました。

関 妙子

支部活動報告

【11月】

- ① 11/1 支部会報、アルザフォーラム案内郵送
- ② 11/1 支部奨学賞結果通知郵送
- ③ 11/10 支部ウェブサイト更新
- ④ 11/21 支部連絡メール発信
- ⑤ 11/28 支部長選考委員会 (zoom)
- ⑥ 11月 支部奨学賞授与式準備
- ⑦ 11月 利用登録3施設新年度更新手続き

【12月】

- ① 12/3 第73回新潟支部奨学賞授与式
- ② 12/3 授与式反省会、役員打ち合わせ
- ③ 12/10 支部ウェブサイト更新
- ④ 12/15 支部連絡メール発信
- ⑤ 12/15 会報担当打ち合わせ (メール)
- ⑥ 12/17 授与式礼状郵送
- ⑦ 12/26 オンライン支部長忘年会 (zoom) : 出席 大淵、鈴木

【1月】

- ① 1/14 国内奨学賞授与式・新春の集い参加 (鈴木、関)
ホームズ奨学生－宮本真菜氏からオンライン礼状受領 (所持写真付)
- ② 1/15 ベトナム奨学生情報確認－支部決算に向けて
- ③ 1/17 新春の集いに関する感想原稿受納－3月刊行予定支部会報原稿
- ④ 1/25 支部決算監査日程 (3/14) 設定・会場予約

【2月】

- ① 2/3 オンライン役員会 (2/6) に向けて書類 (事業報告・計画、決算・予算、会報原稿等) と URL 送付
- ② 2/6 オンライン役員会、ベトナム奨学生推薦
- ③ 2/13 支部事業報告・計画・予算を本部に添付送付
- ④ 総会に向けての書類確認、ベトナム奨学生推薦

オンライン全国支部長懇談会・忘年会

令和4年も押し詰まった12月28日、午後8時からオンラインで全国支部長会懇親会・忘年会が行われ、新潟支部からも大淵、鈴木の2名で参加いたしました。オンラインではありましたが久々の顔を合わせる機会と、皆和気あいあいと意見を交換し、折角の「忘年会」を銘打ったこともあり飲みものの確認などあり、今後の対面での行事に弾みがついた気がいたしました。

本部からはセミナーのテーマとして令和4年の「ユースの視点から」に続き、令和5年も「ユースの力を日本の未来に」を掲げ、本部アンケートの協力を支部にも依頼されました。

各支部からも近況と行事の紹介などが披露される中、予想外の大雪の後であったために新潟への慰労と、また新潟の土地・気候の良さをほめていただき、新潟支部からも支部奨学賞授与式の無事開催とともに、奨学賞授与式をきっかけとして指導教官である男性教授から賛助会員入会のご意向を頂けていることの披露が出来ました。

鈴木裕美

お知らせ

【支部国際奨学生情報】

2022年度のベトナム奨学生が決まりました！ホーチミン経済法律大学に入学したクワン・ティ・トゥーイエンさんです。少数民族のチャム族出身で、高校時代からアルバイトしながらも学業に励む学生さんです。大学へもトップクラスの成績で入学しました。4年間応援していきたいと思いますので、皆様、よろしく願いいたします。

三上杏里

【新潟支部総会】

日時： 4月22日(土) 13:30～ 会場：クロスバル新潟

※詳細が決まり次第、ご連絡いたします。

編集後記

10年に一度の大寒波が日本列島を襲った今冬、皆様いかがお過ごしでしたでしょうか。日脚も少しずつ延び、田んぼでエサをついばむ白鳥の群れが見られるのもあとわずかですね。会報No9は奨学賞授与式を詳しく取り上げ、支部奨学賞のほか、新潟から選ばれた本部国内奨学賞受賞者の授与式・新春のつどいに参加の報告も寄せて頂き、離れていても繋がっていると感じられる思いでした。10月例会学習会はオンラインだからその学習会で、視野を広げる機会となりました。 会報担当 登坂美江子

会報担当 (五十音順)
大淵、鈴木、登坂、三上、吉谷

新潟支部会報 No. 9
(一社) 大学女性協会新潟支部
支部長 大淵智絵 鈴木裕美
<http://jauwniigata.blog.fc2.com/>
発行日 2023年3月15日